

第4章 訓練適応確認問題の検証及び課題

第4章 訓練適応確認問題の検証及び課題

第1節 確認問題の試行

1-1 先行試行の概要

(1) 実施施設

神奈川センター（関東職業能力開発促進センター）

(2) 入所月及び入所選考（確認問題試行）実施日

平成21年度4月入所

入所選考実施日：平成21年2月27日

(3) 対象訓練コース

組込みマイコン技術科（組込みソフトウェアコース）

(4) 対象者数（定員20名）

応募者数132名、うち9名欠席（辞退者含む）で123名受検

(5) 入所選考の方法

面接試験及び確認問題

※ 受講希望者には、応募申込時に「訓練意欲」等に関する簡単なアンケートをお願いしている。

(6) 使用した確認問題（資料3）

<p style="text-align: right; font-size: small;">資料3</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">訓練受講に係る確認</div> <p style="font-size: small;">訓練コース名 _____ 受付番号 _____ 氏名 _____</p> <p style="font-size: small;">訓練コース名、受付番号、氏名を記入した方は、下記の留意事項をよく読んでおいてください。</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">（留意事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 この訓練受講に関する確認は、受講を希望されている訓練と就職に対する具体的な意欲や興味の違いなどを確認させていただき、面接を補完するためのものです。 2 確認の設問は、次ページからの【1】～【9】までの全部で9問ありますが、設問によっては複数の問があります。それぞれ解答（回答）する場合は、所定の解答（回答）欄に記入してください。 3 計算等には、設問用紙のあいているところを使ってください。ただし、電卓や携帯電話等の使用はできません。 4 解答（回答）時間は50分ですが、30分経過後は提出しても構いません。（開始から30分未満では提出できません。）なお、開始から50分後にこの設問用紙を回収しますので、持ち帰りはできません。 5 設問の文章をよく読んで解答（回答）してください。なお、質問等がある場合は、手をあげて職員に促ってください。質問の内容によってはお答えできない場合がありますので、あらかじめご了承ください。 6 受付票を机上の右上に置いて、筆記用具（鉛筆と消しゴムのみ）以外は使用してはいけません。なお、消しゴムが必要な方は職員に申し出てください。 7 次ページのはじめにも訓練コース名、受付番号、氏名の記入するところがありますので、忘れずに記入してください。 8 開始の合図があるまでは、ページをあげないでください。 	<p style="text-align: right; font-size: small;">資料3</p> <p style="font-size: small;">訓練コース名 _____ 受付番号 _____ 氏名 _____</p> <p>【1】 表の（1）から（9）までの文章の（ ）に当てはまる適切なことばを記述して、文章を完成させてください。その答えは下の解答欄に記入してください。</p> <p style="font-size: x-small;">（1）組込みシステムとは、特定の機能を実現するために家電製品などに組み込まれているコンピュータシステムのことであり、マイコンや周辺機器などのハードウェアとその動作手順や命令などが記述されている（ ① ）で構成されている。 （2）コンピュータを構成する基本的なハードウェアは、（ ② ）、（ ③ ）、（ ④ ）などがある。（順序不同） （3）マイコンとはマイクロコンピュータの略であり、集積回路一個ないし数個で構成されたシンプルなコンピュータのことである。組込み機器で採用されているマイコンには、（ ⑤ ）、（ ⑥ ）、（ ⑦ ）などがある。（順序不同） （4）組込みソフトウェアの開発において、最も多く採用されているプログラム言語は、（ ⑧ ）言語である。 （5）リアルタイム処理を実現する仕組みを提供するOSのことを（ ⑨ ）という。代表的なものでは（ ⑩ ）</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">（解答欄）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">③</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">④</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑤</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑥</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑦</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑧</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑨</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑩</td></tr> </table> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">1</p>	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①											
②											
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【2】次の文章は、組込みソフトウェアコース（組込みマイコン技術科）の訓練コースの概要を記述したものです。（ ）内の①から⑤の空白に適切なことばを、それぞれの下記選択肢アからオから選び、文章を完成させてください。その答の記号（アからオ）を下の解答欄に記入してください。

『組込みソフトウェア開発に必要な（ ① ）言語の訓練では、（ ② ）制御プログラミング技術だけでなく、最近組込み分野で利用されている（ ③ ）（μITRON、組込み（ ④ ））を用いた（ ⑤ ）プログラミング技術について習得し、最終的には、Webカメラによる監視システム等の組込みシステム開発技術を習得します。』

（選択肢）

- ① ア. HDL イ. SQL ウ. HTML エ. C オ. FOR
- ② ア. データベース イ. マイコン ウ. FPGA エ. 電線 オ. Web
- ③ ア. CAD イ. パソコン ウ. OS エ. インターネット オ. UML
- ④ ア. プログ イ. USB ウ. クラス エ. チューナー オ. Linux
- ⑤ ア. パラレル イ. ワークシェア ウ. セキュリティ エ. マルチタスク オ. Webデザイン

（解答欄）

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

【3】組込みソフトウェアコース（組込みマイコン技術科）の訓練終了（目標としている知識・技能を習得）後に就職可能な職種または職業（仕事）を知っているだけあげてください。それを下の解答欄に記入してください。

（回答欄）

【4】あなたが最も就職したい職業は、どんな職業ですか。また、あなたがその職業に就くためには、どのような取り組みを考えていますか。またはどのような取り組みをしていますか。その職業と取り組みを下の回答欄に記入してください。

（回答欄）

（職業）
（取り組み）

【5】あなたは5年後、どのような職業生活を送りたいと考えていますか。その考えを下の回答欄に箇条書きで記入してください。

（回答欄）

【6】以下の問題を計算し、その答えを下の解答欄に記入してください。

(1) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ (2) $\frac{1}{3} - \frac{1}{4}$

(3) $\frac{2}{3} \times \frac{3}{4}$ (4) $\frac{3}{5} \div \frac{3}{4}$

(5) $2 \times ((7-3) \div 2)$

（解答欄）

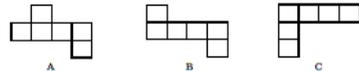
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
-----	-----	-----	-----	-----

【7】ある会社の始業時刻は午前8時45分、昼の休憩時間が12時15分から45分間あります。現在の時刻は午後2時20分ですが、始業時刻から現在の時刻までに勤務した時間は何分間ですか。その答えを下の解答欄に記入してください。

（解答欄）

	分間
--	----

【8】次の図形（AからE）のうち、さいころ（正六面体）の展開図でないもの（さいころにならないもの）はどれですか。その記号を下の解答欄に記入してください。

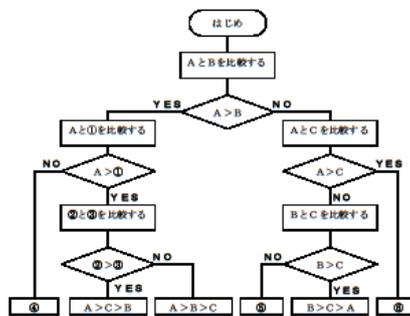


（解答欄）

--

【9】3つの異なる数字が書かれたカードA、B、Cがあります。下図はA、B、Cの大きさの順序を調べるための流れ図です。①から⑥に当てはまるものを、下記の選択肢

アからコから選んで解答欄にその記号（アからコ）を記入してください。



（選択肢）

- ア. A イ. B ウ. C エ. A > B > C
- オ. A = B = C カ. B > A > C キ. A > C > B ク. C > A > B
- ケ. C > B > A コ. B > C > A

（解答欄）

①	②	③	④	⑤	⑥
---	---	---	---	---	---

1-2 拡大試行の概要

7月入所の入所選考より施設内離職者訓練の全コースへ順次拡大試行した。

(1) 実施施設

神奈川センター（関東職業能力開発促進センター）

(2) 入所月及び入所選考（確認問題試行）実施日

平成21年度7月入所（入所選考：平成21年5月29日）より

(3) 訓練コース

施設内離職者訓練の全21コース

(4) 対象者数（7月入所定員163名）

応募者数735名

(5) 入所選考の方法

面接試験及び確認問題

応募者数の多い訓練コースでは集団面接を取り入れたり、確認問題にマークシート方式を取り入れたり、多くの受講申込者を1日で選考するための工夫を凝らしている。また、訓練コースによっては面接試験までの待ち時間に簡単なアンケートに回答してもらい面接時の参考としている。

1-3 想定される効果

(1) 定性的効果

イ 「確認問題」の傾向を公開し、職業訓練の受講希望者が事前に準備しておくべき項目を明確に示すことにより、受講希望者が、訓練内容等についての自身の具体的な理解度や意欲・興味・関心等を把握・確認し、受講を希望する職業訓練コースの理解と適切なコース選定、希望する就職先の職業理解とその職業生活に対する意思等を確認することにより、訓練コースとのミスマッチを減らすとともに、適応度合いの確認・向上が可能

ロ 職業訓練に対する受講希望者の受講意欲の向上及び就職に向けた前向きな意識の醸成

ハ 就職意欲・訓練意欲の低い受講者が減少することにより、受講中の訓練環境（雰囲気）の改善

ニ 入所選考を巡る苦情等の減少

ホ その他

(2) 定量的効果

イ 就職率・関連就職率の向上

ロ 満足度の向上

- ハ 習得度の向上
- ニ その他

第2節 確認問題を用いた入所選考の検証

2-1 入所選考実施準備

(1) 確認問題の作成

担当の職業訓練指導員の入所選考の前準備として「確認問題」作成の負荷が大きい。

確認問題は、訓練コースごとに作成することや入所選考のたびに問題を変更する必要がある。また、問題に不備や誤解が生じないように複数名によるチェックも重要である。

また、確認問題の作成を支援するため「訓練適応確認問題の仕様」（「訓練適応確認問題とその作成手法」）（資料1）により確認問題の作成指針を示している。

(2) 確認問題の実施運営

適性検査では、全受講希望者を同様の検査を行うため、同時に実施する必要があり、大きな会場や会場を分割しての一斉実施が必要であった。確認問題の実施は、訓練コースごとに実施することができるため柔軟に会場や時間を設定できる。

2-2 入所選考実施・運営

(1) 確認問題の試験実施・運営

確認問題の試験時間を50分（30分経過後は自由退出）とした。

担当の職業訓練指導員は面接試験を担当するため、確認問題試験の運営に必ずしも立ち会うとは限らず、一般の職員でも対応可能である。しかしながら、専門性に関する問題に質問が出た場合、一般職員での出題内容への対応が困難なため、試験前に受講希望者へ出題に関する質問を受け付けられないなどルールを設け、通知するなど説明が必要である。

2-3 採点・判定

(1) 確認問題の採点

適性検査の採点は、模範解答があるため全ての職員が対応できたが、訓練コースの専門性を加味した確認問題の採点では、選択式問題を除き担当の職業訓練指導員が採点することとなる。

複数の解答がある問題や自由記述式の問題では、担当の職業訓練指導員に

よる採点が必要となる。また、採点者の主観性により採点に幅が生じる問題は、複数名の採点の平均値を取るなど客観性を維持することにした。

①複数の回答がある問題例

【問】組込みマイコン技術科の訓練修了（目標としている知識・技能を習得）後に就職可能な職種または職業（仕事）を知っているだけあげてください。それを下の回答欄に記入してください。

②自由記述式の問題例

【問】あなたは5年後、どのような職業生活を送りたいと考えていますか。その考えを下の回答欄に箇条書きで記入してください。

(2) 判定について

適性検査の結果も数値化されており、確認問題導入により大きく判定方法が変化するものではない。

面接試験と確認問題を点数化し数値化することによって客観的かつ効率的に判定ができた。また、面接試験に重きを置いており、その得点も確認問題の得点と比べて大きい割合で設定している。

公共職業能力開発施設により、面接点と筆記試験による得点の重みを2：1にするなど、面接点の比重が高くなるように運用されている。

第3節 確認問題の効果と改善

3-1 確認問題導入に係る効果

(1) 職員アンケート調査からの考察

職員に対するアンケート調査（図4-1）により、確認問題の効果として「必要学力」については十分な効果が出ている。残りの「受講意欲」「就職意欲」についても大体確認できたという結果が出ている。面接試験を補完する確認問題としては、良好な結果が出ていると考えられる。

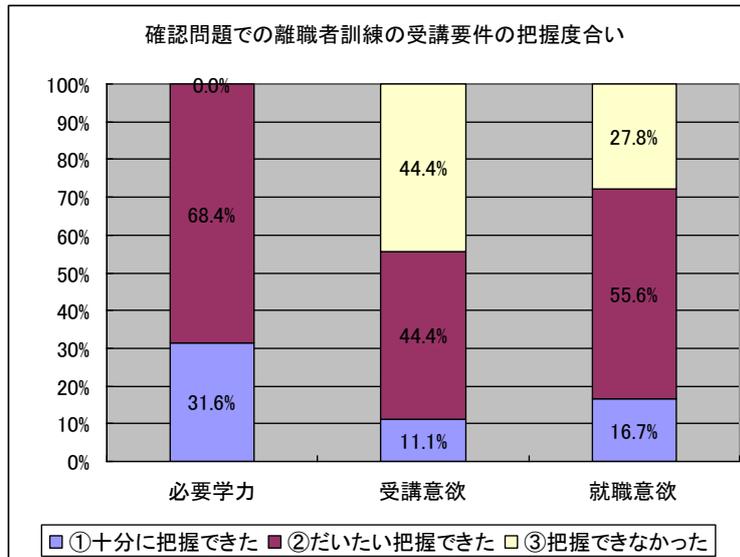


図 4-1 確認問題での離職者訓練の受講要件の把握度（アンケート調査より）

(2) 受講希望者の入所選考結果からの考察

図 4-2 に受講入所選考対象者の確認問題得点と面接点の分布を示す。

横軸の確認問題の得点が、30～45点周辺に集中しており、分散が小さいため、自ずと面接点が大きな要因となる。実際の運営では、面接点に重み値を加えている施設が多い。

確認問題としての役割を満たしており、必要最小限の訓練適応性を有するか判定するという考え方であれば、分散を意識する必要は無いが、受講希望者が多く、得点の分散を広げるためには、意図的に問題の難易度などを調整する必要がある。

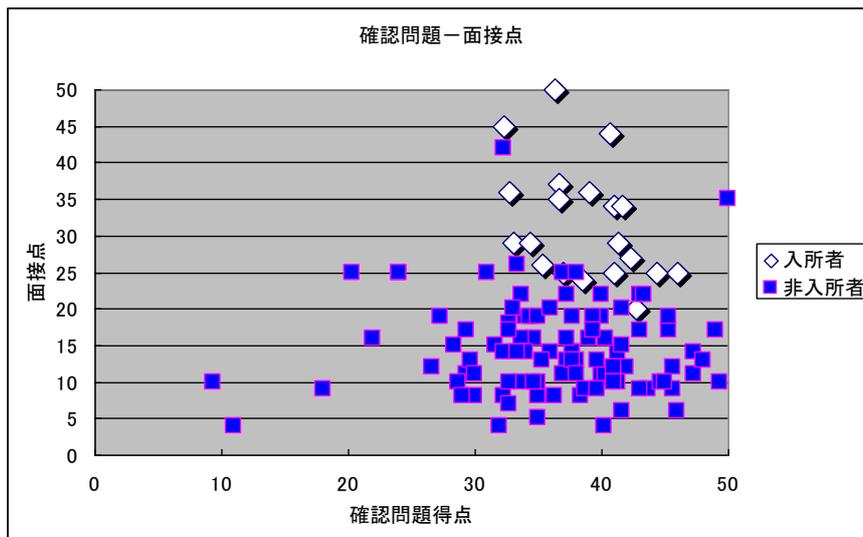


図 4-2 受講希望者（入所者・非入所者）の面接と確認問題の得点分布
（神奈川センター組込みマイコン技術科入所選考）

3-2 関係職員・職業訓練指導員へのアンケート・ヒアリング調査

訓練受講生における確認問題の結果と入所後の受講態度、習得度、就職状況等についての相関性について検証を行うため関係職員・担当職業訓練指導員へのアンケート調査（19名）及びヒアリング調査（6名）を実施し確認問題を導入した結果について分析・検証を行った。

(1) アンケート調査

①訓練コースとのマッチング

受講者と「訓練コースとのマッチング」や「訓練に対する受講態度」は、確認問題を導入する前と導入した場合を比較すると、「以前と変わらない」という回答が最も多いものの、「良好である」が30%程度あり、概ね改善した結果が得られている。

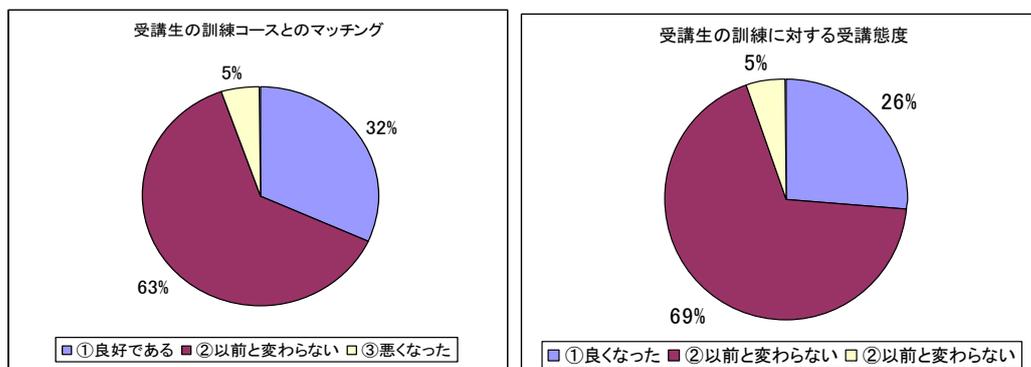


図4-3 入所した訓練受講者の訓練に対する変容（職員アンケート調査より）

②受講状況

就職活動については、グラフ（図4-4）上顕著に効果が現れていないが、ヒアリング調査から就職活動時に提出する「訪問票」の提出数が増加し、活発化していることが確認された。

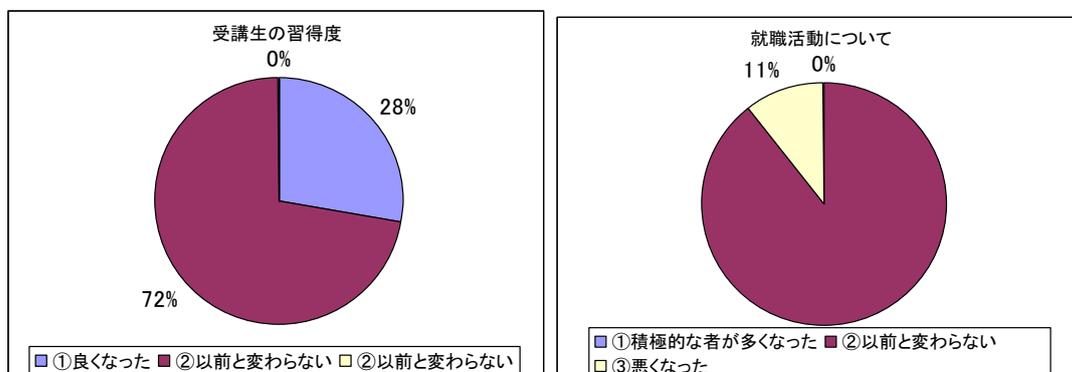


図4-4 入所した訓練受講者の適応効果（職員アンケート調査より）

(2) ヒアリング調査

①業務系職員の意見

- ・ 筆記試験の運営主体が、担当の職業訓練指導員へ移ったことにより業務系職員側の業務が軽減された。
- ・ 入所判定の時間が短縮され、公共職業安定所との調整が円滑に行われるようになった。
- ・ 応募時や入所説明会で試験内容に関する質問が多くなった。回答としては、義務教育程度の問題であると説明している。
- ・ 就職活動時に訓練を休む場合に提出する「訪問票」の提出枚数が増えている。

②担当職業訓練指導員の意見

- ・ 適性検査から確認問題試験に移行した影響により、受講生の特性が大きく変わることは無く、職業訓練の実施・運営に関しても大きく変わることはない。
- ・ 受講生の中に訓練内容や基礎的知識に関して、全く知らないという人が無くなった。訓練コースと受講生のミスマッチが減少した。
- ・ 面接を重視しており、器用・不器用はあるものの「ものづくり」が好きかどうか意欲にポイントを置いている。
- ・ 確認問題の作成において誤解を発生させるような文章表現に注意する必要がある。
- ・ 過去に適性検査を活用した入所選考を経験した者が、再び入所選考に参加する者も見受けられるようになり、既に経験している適性検査で高い得点を取ってしまうことがある。
- ・ 集団面接方式へ移行したため、一部の質問を確認問題へ盛り込んで対応した。
- ・ 論理的思考・発想力を問う問題の作成にノウハウが必要である。
- ・ 製造業からの離職した受講希望者が多くなり、専門性を問う問題など難易度を上げないと差がつかない。
- ・ 景気後退による影響で、就職活動に費やす時間が多くなった（具体的には、訪問・面接回数が多くなっている。）割には、就職へなかなか結びつかない。

3-3 訓練適応性と確認問題の評価・課題

(1) 確認問題実施上の改善・課題等

① 準備の段階

イ 入所選考の都度、確認問題を変更する必要があるため、問題作成担当者の負担が大きくなった。

② 入所選考の実施段階

イ 適性検査の進行・採点を行っていた業務系職員の負担が大きく減少した。

ロ 訓練コースによっては、定員の2倍～6倍程度の応募数があり、面接試験の試験官側の負担が大きいこと、個人面接では一人あたり数分の時間しか取れないこと、並びに集団面接方式を導入しても十分な面接時間を確保できないことから、確認問題に面接試験では聞き取れない内容を盛り込むことによって補完している。

ハ 一部訓練コースでは、面接試験と確認問題の他に事前質問票で、訓練内容理解度や希望する労働条件、生活環境などの周辺情報を把握し、面接試験と併せて広範な視点で訓練適応性を評価している。

③ 採点・判定の段階

イ 基礎的な専門知識や自由記述式の設問を取り入れたことにより、採点作業を担当する指導員の負担が大きくなった。

ロ 一部訓練コースでは、応募者数が多いため採点作業を軽減するために確認問題を全問マークシート方式、または自由記述式とのマークシート方式の併用によって採点作業の軽減化・迅速化を図った。しかしながら、マークシート方式による選択問題では、定型的な回答しか得ることができないため、「受講意欲」「就職意欲」を推し量るには十分な面接試験の実施が必要となる。

3-4 確認問題試行の総評

前述の図4-1のように面接試験では、時間が少なく十分な聞き取りができない、筆記問題で十分把握できる内容を確認問題に役割を持たせることにより、訓練適応性の要件把握に効果があると考えられる。

また、確認問題を導入し入所選考を終えた段階での試行・検証に係る総評は以下のように考察される。

(1) メリット

- ①訓練コースの目的・目標に対して意欲・適応性のある受講者の選考に有効
- ②適性検査を担当していた職員の作業負担の減少
- ③全訓練コースの受講希望者を1箇所を集める必要がなくなったことによる試験会場設定の弾力化

④インターネット等による試験問題や解答情報などの問題漏洩に対応

(2) デメリット

①担当指導員の作業負荷の増加(確認問題作成、採点作業など)

(3) その他の課題・留意事項等

①公共職業安定所による窓口での相談（職業ガイダンス）、入所説明会、募集パンフレットでの訓練内容及び選考方法の説明に関する受講希望者の理解

②訓練コースや訓練目標により確認問題の設定構成が異なること

③確認問題作成負担の軽減、問題共有化、訓練コースの専門性に依存しない問題の整理

また、今回の試行施設では、受講希望者が多いため一人あたりの面接時間が充分確保できないため、集団面接を採用したり、また、確認問題には一部マークシートを導入し、限られた入所選考の時間の中でより良い効果が得られるよう工夫・効率化を図っている。

さらに、確認問題を作成する職業訓練指導員は、職業訓練の効果的な運営を意図し、職業訓練指導員と受講生、並びに受講生同士の相乗効果を想定し確認問題を設定することができる。

第4節 担当職業訓練指導員による受講生の観察による考察

4-1 受講者の行動特性の観察

入所後の受講生（20名）の活動について、担当指導員が以下①～④の行動特性について観察を行い、5段階評価（毎月1～5点、6ヵ月合計30点）で記録した。（表4-1）ただし、サンプル数が20名という少数であることを留意願いたい。

①受講意欲

②訓練習得度

③就職意欲・活動

④積極性

表4-1 受講者の状況（神奈川センター組込みマイコン技術科）

番号	確認問題 得点	面接点	受講意 欲	訓練習 得度	積極性	就職意 欲・活動	行動特 性合計
1	46.0	25	29	23	18	21	91
2	33.0	29	27	19	24	25	95
3	34.3	29	30	24	22	24	100
4	41.0	25	30	26	26	26	108
5	42.7	20	13	7	6	15	41
6	37.0	25	30	30	30	28	118
7	42.3	27	29	20	21	23	93
8	35.3	26	30	29	13	18	90
9	40.7	44	22	15	10	17	64
10	32.3	45	24	7	8	21	60
11	36.7	37	30	19	18	26	93
12	36.3	50	30	22	30	30	112
13	32.7	36	27	18	14	21	80
14	41.0	34	27	18	15	16	76
15	41.3	29	29	20	10	23	82
16	41.7	34	30	30	30	26	116
17	39.0	36	30	29	24	26	109
18	36.7	35	25	9	6	22	62
19	44.3	25	29	22	12	20	83
20	38.5	24	22	24	20	22	88
平均点	38.6	31.75	27.15	20.55	17.85	22.5	88.05

4-2 受講者の行動特性の相関関係その1

前述の表4-1から、上記①～④の特性について確認問題の得点、及び面接点との散布状況を確認した。(図4-4-1～4) グラフ上部に分布されているほど各行動特性で評価が高いことを示す。

確認問題との関係と面接点との関係を比較すると、面接点の方が行動特性（横方向）の散らばりが大きく、左の確認問題のグラフは右上に散布が集中しており、面接点よりも確認問題との関係が深いと思われる。

特に、図4-4-2の訓練習得度については、受講者の習得度の遅れなどが現れる要素であり、「必要学力」を盛り込んだ確認問題との関係性が強い結果となっている。

面接点との行動特性の関係をみると、面接点の高低に関わらず分布がまばらであり関係性を見出す事ができない。

つまり、訓練適応性を図る上で確認問題の方が入所後の受講生の活動と密接に関係している。

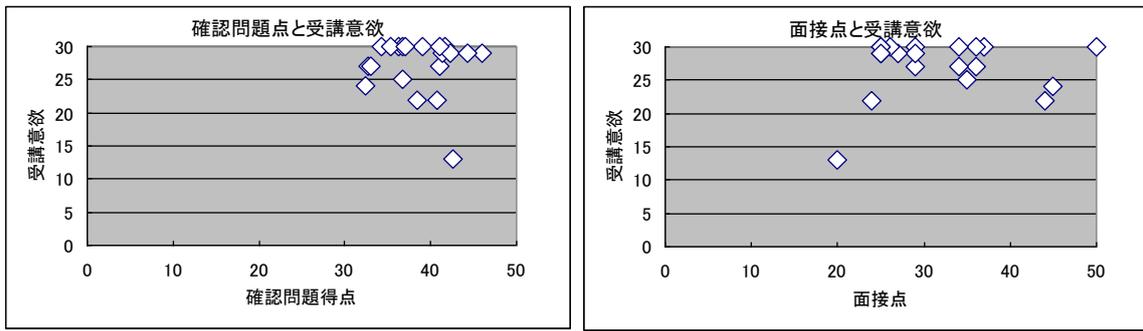


図 4-4-1 受講意欲との関係分布

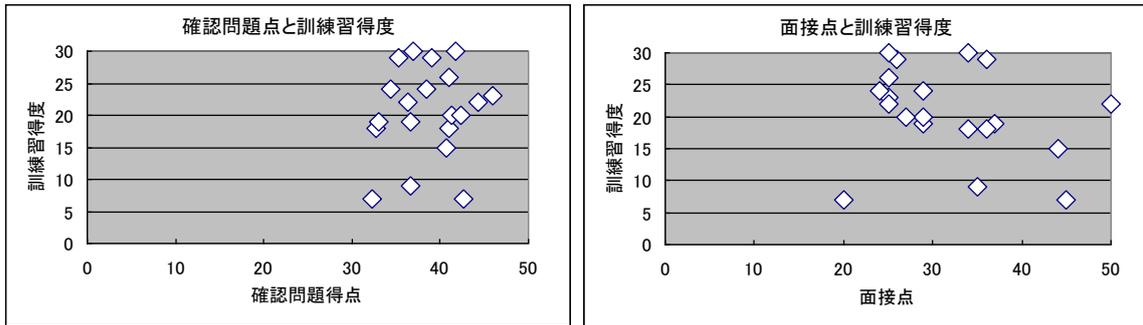


図 4-4-2 訓練習得度との関係分布

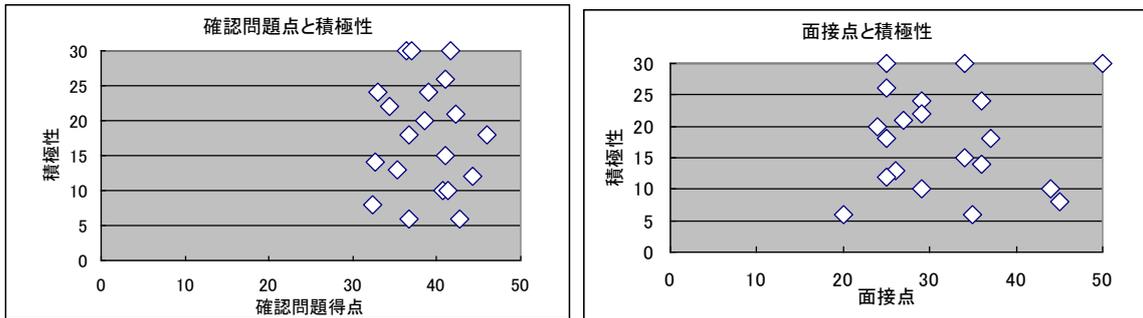


図 4-4-3 積極性との関係分布

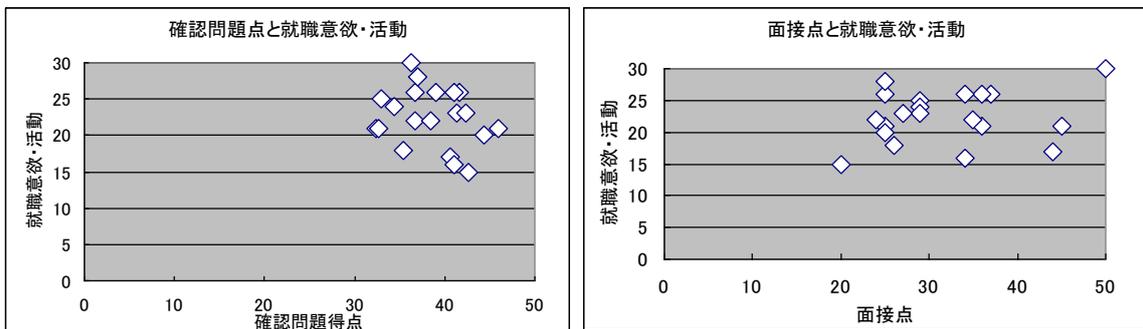


図 4-4-4 就職意欲・活動との関係分布

4-3 受講者の行動特性の相関関係その2

前述の図4-4の4つの行動特性の関係では、特段大きな傾向を見ることはできなかった。

そこで、①受講意欲、②訓練習得度、③就職意欲・活動、④積極性（各30点）の合計と確認問題得点の分布（図4-5-1）、及び面接点との分布（図4-5-2）を示した。

行動特性合計点の分布は、確認問題との関係では比較的右上方向へ集中しており、確認問題得点と行動特性の相関関係が垣間見ることができる。しかし、面接点との関係では、面接点が低くても行動特性が高いなど、面接点と行動特性の関係性が乏しいことが伺える。

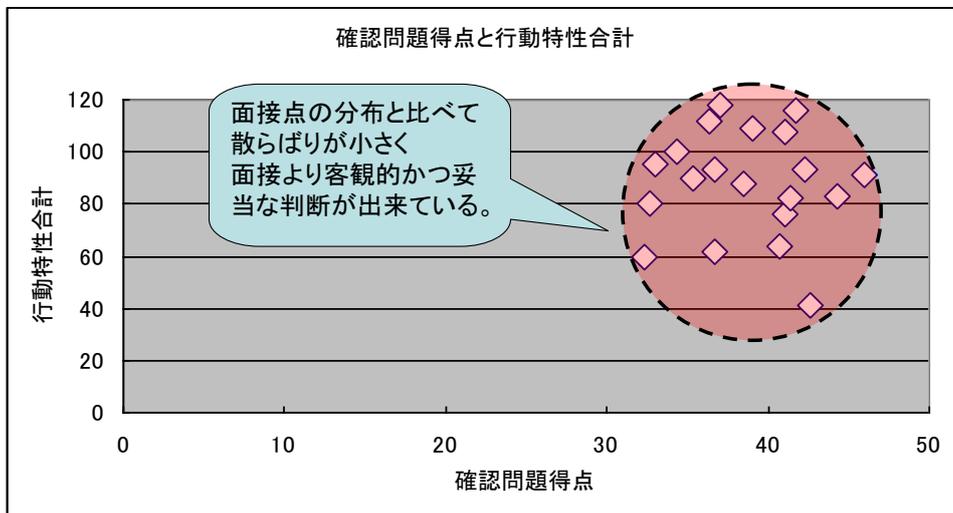


図4-5-1 確認問題得点と行動特性合計の分布

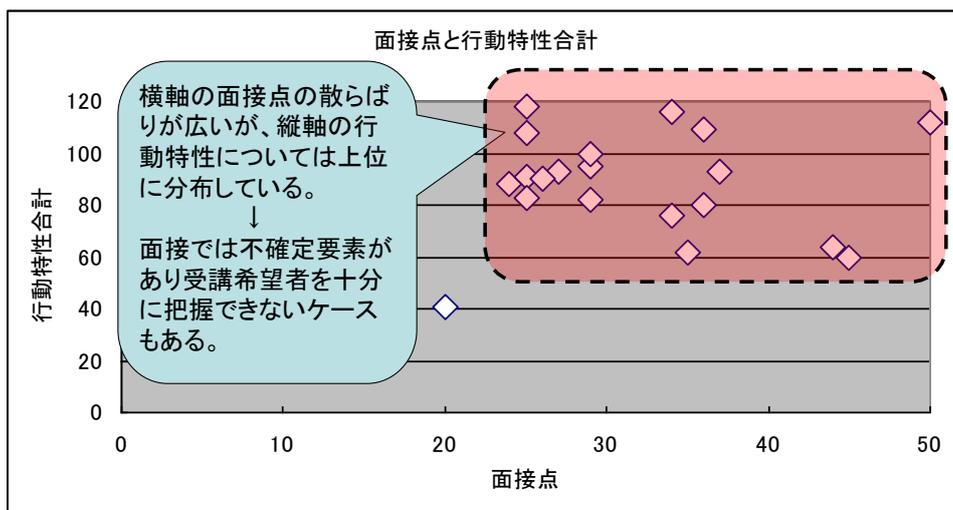


図4-5-2 面接点と行動特性合計の分布

つまり、確認問題と面接試験を比較すると、確認問題のほうが受講希望者の「必要学力」「受講意欲」「就職意欲」について適格に捉えることができていることが分かる。ただし、実際には面接時間が少ないことも留意する必要がある。入所選考の実施上の制約である1時間程度の筆記試験と短期時間の面接試験の中で効果的に訓練適応性を見極めるのに、確認問題には十分な有効性を認めることができる。

4-4 確認問題と就職との相関関係

確認問題と就職との関係は、外部環境・雇用失業情勢等の要因が大きく影響し、確認問題の試行期間においては、完全失業率が過去最悪の5.6%（平成21年7月）に達する状況もあり、対象訓練受講生の就職率は対前年と比較し減少した。

関係職員及び担当職業訓練指導員に対するアンケート・ヒアリング調査によると、条件の良い求人があれば訓練受講中であっても早期退所し、就職を優先する者が多くなったという状況も確認できた。

しかし、サンプル数が少ないこともあり確認問題導入による就職との関連性を見出すことはできなかった。

(1) 就職状況と各指標の考察（その1）

表4-2に、就職者と未就職者の各指標の平均点を示した。表から見いだせる傾向は、サンプル数が少ないので、確認問題点において未就職者が僅差で上回っており想定され得る傾向が出ていないが、面接点と行動特性などにおいては、就職者の方が上回っている。

特に行動特性においては、点差も大きいため職業訓練受講中の行動も就職に関する大きな要因となっている。担当の職業訓練指導員は、訓練期間中も行動特性の経過を留意しながら重点的に受講生を導くことも必要である。

表4-2 就職状況と各指標の平均点

平均点	確認問題点 (50点満点)	面接点 (50点満点)	行動特性 (120点満点)
就職者 (85%)	38.5	32.1	92.1
未就職者 (15%)	39.6	30.0	65.0

(2) 就職状況と各指標の考察（その2）

表4-3に、前述(1)の行動特性合計点での比較を行ったが、さらに行

動特性の4つの要素ごとに就職者と未就職者の平均点を比較した。就職者の方が、4つの要素全てにおいて高いポイントを示した。

再度の記述になるが、職業訓練指導員は、職業訓練受講中に各行動特性を観察し、必要と思われる受講生に留意しながら、受講生全体を指導・誘導することが就職率に大きく影響する。

表 4-3 就職状況と各行動特性指標の平均点

行動特性平均 (各項目30点満点)	受講意欲	訓練習得度	積極性	就職意欲・活動
就職者 (85%)	28.1	21.2	19.3	23.5
未就職者 (15%)	21.7	17.0	9.7	16.7

(3) 就職状況と各指標の考察 (その3)

図 4-6 に、就職状況と確認問題得点と面接点の分布を示す。確認問題及び面接試験を通じて入所選考した結果として20名中17名の就職、85%の就職率という良好な結果を得ることができた。ちなみに雇用・能力開発機構の施設内離職者訓練の平均就職率は、平成20年度78.5%である。

今回の試行では、サンプル数も少なく1名の中途退所者も存在することから特出した傾向は読み取れなかった。

しかしながら、確認問題と面接で実施した入所選考が、訓練適応性を推し量り、就職に結びつくという一連の効果を少なからず確認できた。

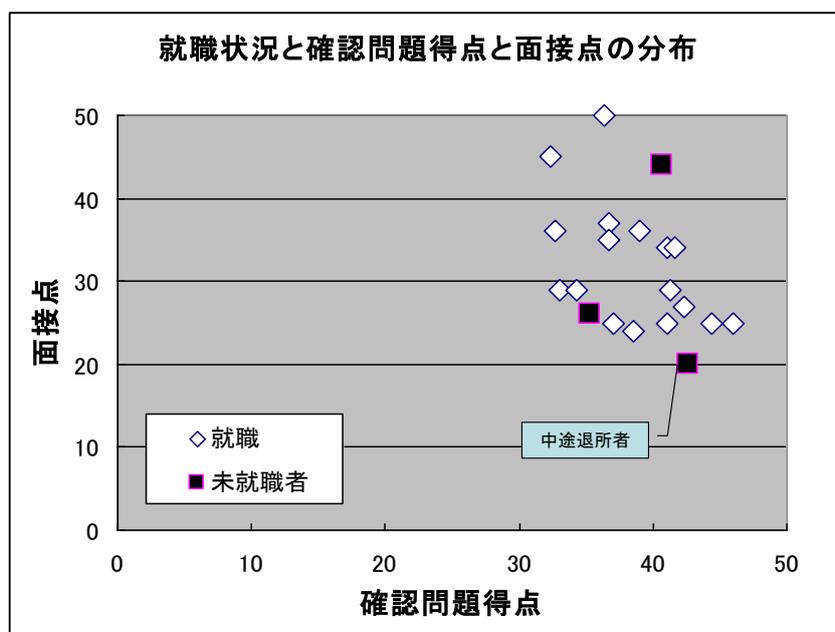


図 4-6 就職状況と確認問題得点と面接点の分布

第5節 今後の課題とまとめ

本調査研究で検討された確認問題は、試行・検証を通じて一般的な適性検査等と比較し、訓練コースに対する訓練適応性、受講生の受講状況、及び就職までの効果について有用なことが確認できた。

5-1 今後の課題

(1) 面接試験の補完としての確認問題

前述の第3節では、確認問題の入所選考段階での訓練適応性を図ることに効果が出ており、また、第4節のとおり受講中の行動特性からも訓練コースとのマッチングに良い傾向が見られる。

確認問題を作成する際には、面接試験の内容を設定してから、その不足分を補完するための確認問題の設定が必要であること。また、一般常識や必要学力については、確認問題で十分に把握することができる。

確認問題と面接試験のそれぞれの特性を活かした役割分担に留意することがポイントとなる。(図4-7)

(2) 確認問題の漏えい

インターネット等で試験問題の内容が公開されることが散見されており、公開されても公平性を保持できるように自由記述式の設問や、計算問題でも数値を変更するなど入所選考の都度変更を加えていくことで対応が可能である。

(3) 確認問題の収集と共有化

担当職業訓練指導員の確認問題作成の負担を軽減するために、就職意欲や受講意欲に関する問題は、訓練コースの専門性に依存しないため共有化できると考えられる。(図4-6) また、機械関係、建築関係などの専門分野別にも問題の収集・共有化を図る必要がある。

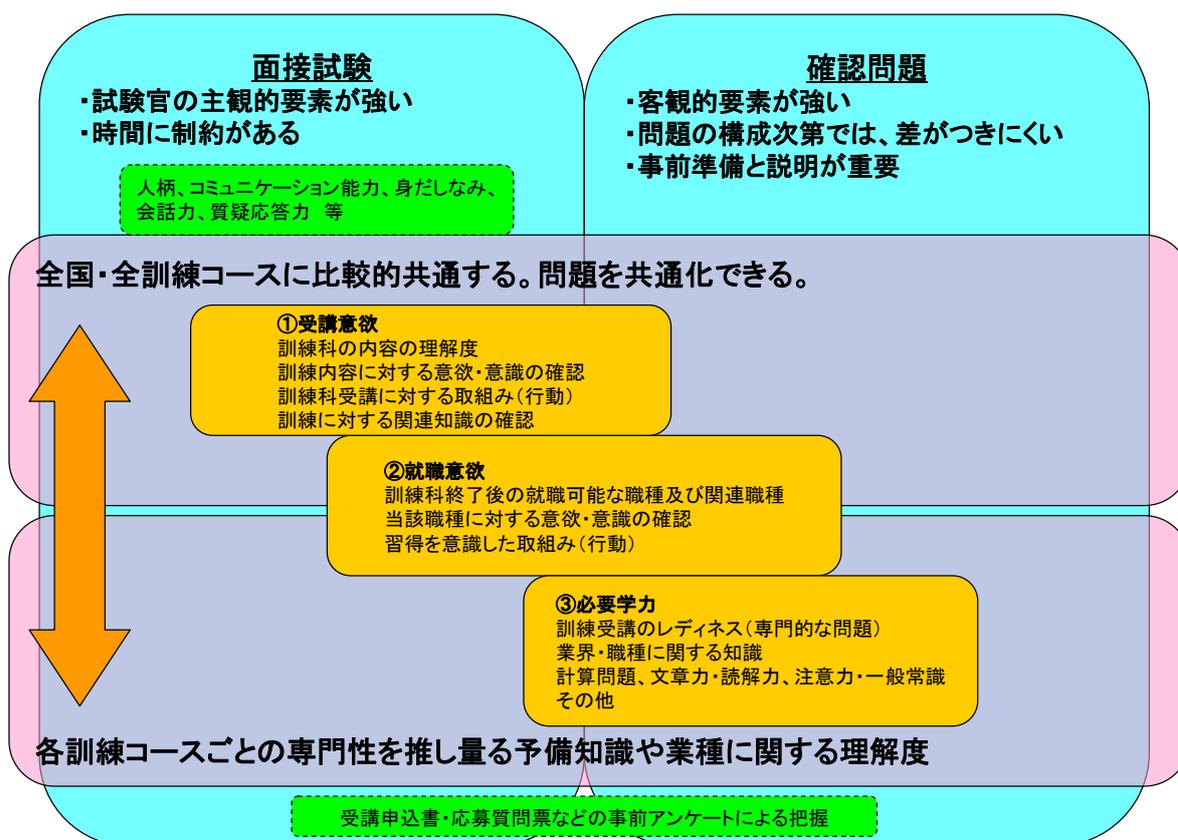


図 4-7 面接試験と確認問題の性質及び対応する受講要件の関係

5-2 まとめ

平成20年度の研究会の結果を受けて、確認問題の試行・検証を行ってきた。結論として、本調査研究で検討された確認問題は、試行・検証を通じて一般的な適性検査等と比較し、訓練コースに対する訓練適応性、及び受講要件を確認するに有用なことが確認できた。

また、確認問題と面接試験による入所選考が、受講要件「就職意欲」「受講意欲」「必要学力」の把握について相互に補って、より高い訓練適応性を持ち、対象訓練コースにマッチングした受講希望者の入所判断に繋がることが確認された。

- (1) 確認問題の導入による効果は、確認問題の作成や採点時の負担は増加するものの、今回の試行・検証を通じて「必要学力」「受講意欲」「就職意欲」の具体的な把握には効果があることが確認できた。
- (2) 訓練コースごとに確認問題を設定することは、訓練コースに特有な必要学力や関連業界の知識確認などを付加して、受講希望者の意欲を把握する点において利用価値があることが明らかになった。
- (3) 受講希望者との面接試験が短時間と制約され、「必要学力」「受講意欲」「就職意欲」を十分に把握できないような場合、面接時の質問内容を確認問題に

盛り込むことにより、面接試験を補完することができ、その後の訓練受講者との相互理解を高め、効果的な職業訓練の実施に寄与するものであると考えられる。

- (4) 訓練受講中の受講意欲、訓練習得度、積極性、就職意欲及び就職活動を観察しながらフォローアップすることも、受講生の訓練適応性をさらに伸ばし、具体的な業種あるいは職業理解へと結びつき就職に至る職業訓練のマッチングに資することが確認できた。そのためにも、職業訓練指導員や就職相談員など関係職員から受講者に対する指導、誘導及びアドバイスが重要である。
- (5) 担当職業訓練指導員が入所選考に確認問題作成という面で直接関与することによって、訓練目標や訓練を実施する過程での課題を踏まえて確認問題の改善を図るサイクルが可能になるという効果も確認できた。